

第Ⅱ章 『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の活用に向けて

1 『鳥取県幼保小連携カリキュラム』のめざすもの ～「遊びきる子ども」～

『鳥取県幼保小連携カリキュラム』のめざすものは、「遊びきる子ども」です。幼児教育・保育の充実は、「遊びきる子ども」を育てるとともに小学校への円滑な接続にもつながります。「鳥取県幼児教育振興プログラム（改訂版）」（P. 11）の「遊びきる子ども」を参考にして、より充実した遊びを展開することが求められます。

「遊びきる子ども」

本県では、「遊びきる子ども」をめざす幼児の姿として掲げました。

遊びと生活の中で、心も頭も体も一緒に育つのが乳幼児期の特徴です。友達との集団生活を通して、「遊びきる子ども」を育てていくことをめざします。

遊びの楽しさは、子どもが**遊びたい**という意欲から、自ら**遊びだす**ことで始まります。そして、**遊びこむ**ことで、遊びの楽しさやおもしろさが深まったり広がったりしていきます。十分に遊びこむことが**遊びきる**ことにつながり、遊びきることで心地よい満足感や達成感を味わっていくのです。この満足感や達成感といった自己充実感が自信となり、新たな遊びを生み出すエネルギーになるのです。このエネルギーが育つことで気持ちの切り替えにつながるのです。

そのため、幼稚園・保育所・認定こども園では、友達とたっぷり遊ぶ時間と場を保障し、心ゆくまで遊びきるができる環境を構成することが必要となります。

また、幼児教育・保育の専門家である保育者が、主体的な遊びを中心とした乳幼児期にふさわしい生活をつくっていくことが重要です。



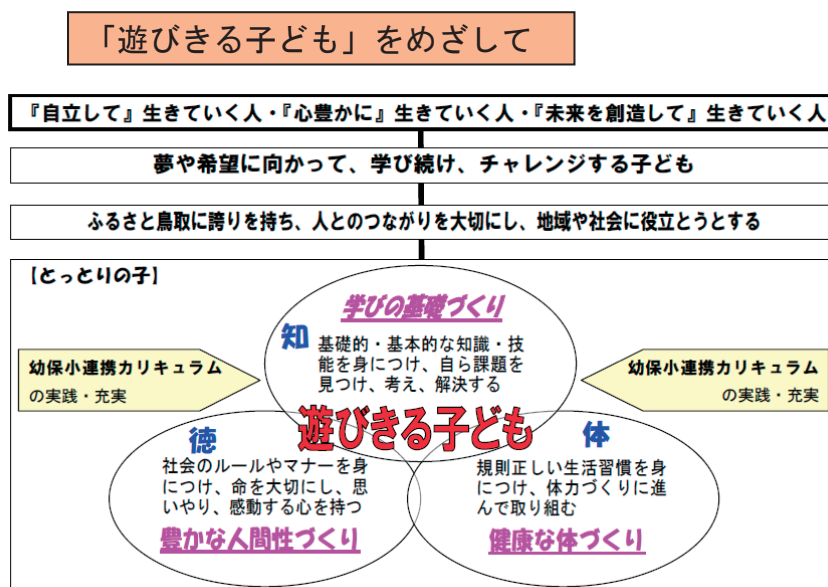
POINT

「遊びこむ」とは、遊びに集中する中で、その子らしい発想が生かされて遊びが深まったり広がったりしながら継続して展開されている状態のことをいいます。そこには、時間・空間・仲間の三つの間が必要です。我を忘れて「遊びこむ」ほどの楽しさを知ることが「遊びきる」ことにつながります。「遊びきる」とは、一人一人が自己発揮をし、様々な葛藤体験を乗り越えながら友達とかかわって十分に遊びこみ、満足感や達成感を味わうことができている状態であるととらえられます。

「鳥取県幼児教育振興プログラム（改訂版）」（平成25年3月策定）
<http://www.pref.tottori.lg.jp/81103.htm>

2 『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の考え方

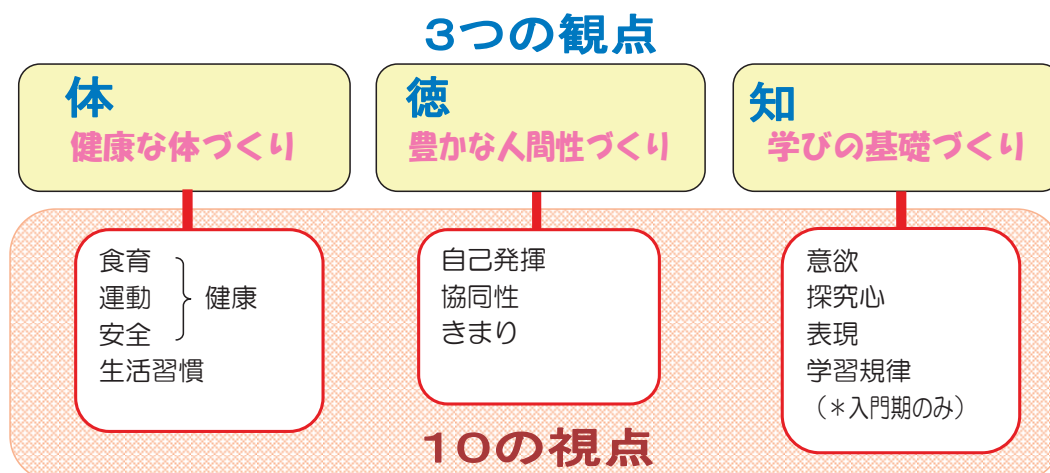
めざす幼児の姿である「遊びきる子ども」は、鳥取県のめざす人間像である『自立して』生きていく人・『心豊かに』生きていく人・『未来を創造して』生きていく人へとつながっています。



『鳥取県幼保小連携カリキュラム』では、「遊びきる子ども」につながる各年齢におけるめざす姿を示しています。

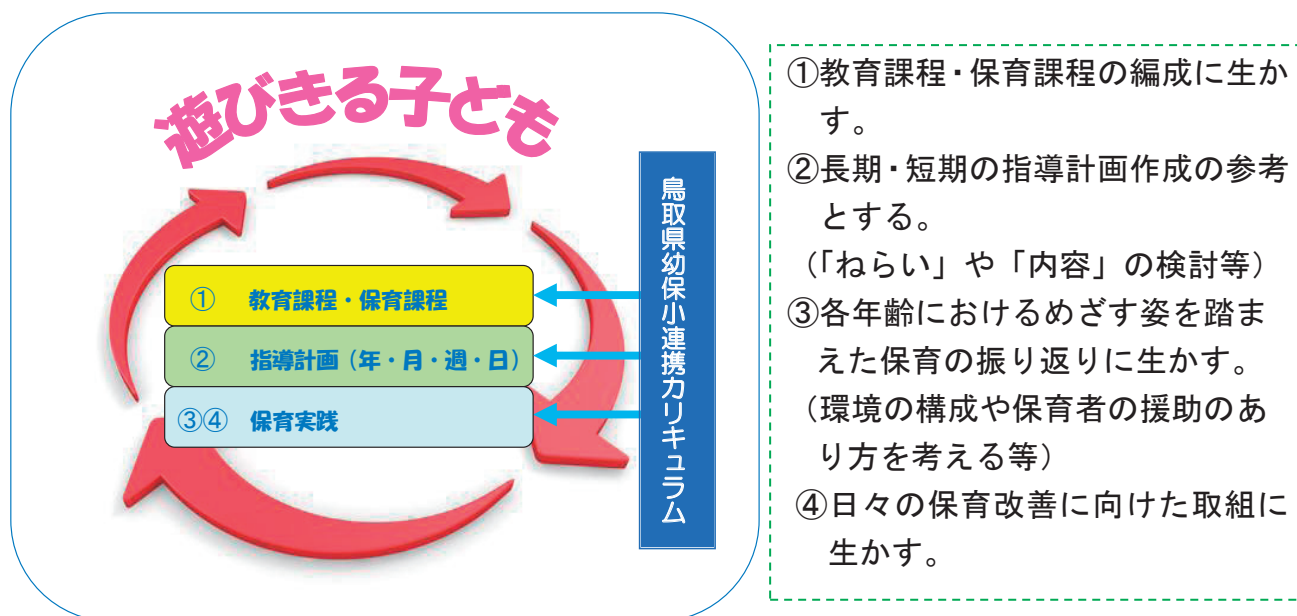
それぞれの年齢でめざす姿を考えていくにあたり、**体**：「生活（健康な体づくり）」・**徳**：「人とのかかわり（豊かな人間性づくり）」・**知**：「興味・関心（学びの基礎づくり）」の3つの観点を設けました。これは、「生きる力」を支える調和のとれた育みを重視しながら、小学校と同様に「知・徳・体」でとらえることにより、つながりを意識しやすくするためです。

さらに、3つの観点を発達の特徴から10の視点（*0歳児・1歳児は9の視点、入門期は11の視点）に分け、めざす姿を示すこととしました。これは、子どもたちの「育ち」や「学び」を理解するうえで、重要な視点です。



3 『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の活用

『鳥取県幼保小連携カリキュラム』は、幼稚園等において以下のように活用することができます。



また、幼稚園等と小学校関係者の相互理解や幼児教育・保育、小学校教育の充実に向けて、自園・自校の子どもの実態に合わせて、本カリキュラムを工夫して活用することができます。

例えば、次のような活用の場面が考えられます。

【活用の場面】

- ・ 乳幼児・児童の交流活動
- ・ 教職員合同研修会
- ・ 小学校教員の保育体験
- ・ 合同研究保育
- ・ 幼稚園教員・保育士の授業体験
- ・ 幼稚園等と小学校の連絡会 など